

千葉大学大学院医学研究院

病原細菌制御学教授 野田 公俊(のだ まさとし)氏  
(八戸市出身)



## 感動が目標に！ 目標が力に！

私が学者の道を選んだのは、小さい頃に母方の祖母が繰り返し話してくれた御先祖様のエピソードが影響しています。

御先祖様は、明治時代にアメリカのシカゴ大学に留学し、博士になって、ペンシルベニア大学で生物学の教授を務めた方です。大正時代には、東北帝国大学でも教授を務めました。こうした祖母の話を聞くうちに、私も世界的に活躍できるような学者になりたい、病気で困っている多くの人の役に立てるような医学者・細菌学者を目指そうと思うようになりました。

細菌学者に魅力を感じたのは小学校時代です。ある夏の日でした。子ども向け科学雑誌の付録の顕微鏡を持って、友だちと学校の池の水を観察しに行きました。レンズを通して幾何学的模様の多くの生き物が見え、それまで見たこともない小さな世界の美しさと奥深さに驚きと興味を覚えました。「ミクロの世界からのメッセージ」を、私が初めて受け取った瞬間でした。早速、学校の図書室に行き、微生物のことを夢中で調べました。

さらに、わが国の細菌学の父と呼ばれる北里柴三郎博士に関する簡単な伝記も見つけました。博士のドイツへの留学と研究人生は「目に見えない細菌の研究で、人の命を救うことができるのか」と、小学生の私に多くの感動を与えました。「ミクロの世界からのメッセージ」の第2回目を受け取った瞬間でした。



私は、これらの体験を夏休みの感想文にしました。「目に見えない小さな生き物を研究して、ヒトの命を救うのは何て素晴らしいことだろう」と、<sup>こんしん</sup>渾身の力を込めて書きました。

振り返ってみると、小学校時代に目指した進路を、着実に歩んできたと思います。

しかし、一度だけ大きな試練がありました。

高校3年生の9月、校内で、私の左目に、誰かが投げた野球のボールが直撃

するという事故に遭ったのです。失明の可能性が高いため、受験勉強をすぐに止めて極力安静にきなさいと専門医から言われました。それまで受験の準備をしていたので大変なショックでしたが、現役の受験を諦めました。

高校卒業と同時に上京し、目に負担のかからない仕事をということで、大きな会社の工員として2年間働きました。

その後、目も順調に回復し、受験勉強をしても大丈夫ということになり、仙台市の予備校で1年間受験勉強をし、無事大学に入学しました。

世間を知らない高校生が、突然大きな試練にあった訳ですが、私には小学生からの目標がありました。一刻も早く健康体になって学問の世界に戻りたいという思いが、この試練に立ち向かわせ、克服させてくれました。

目標をもって、それに少しでも近づきたいと思うことは、60歳代になった今でも変わっていません。

人生の中で一度や二度の挫折は誰にでもあるものです。しかし、目標を見失わなければ、その困難は乗り越えられ、人間は強くなっていくと思います。ですから、挫折や試練を恐れず、受け入れて進んでほしいと思っています。

この高校卒業から大学入学までの3年間は、私にとって本当に貴重な体験となりました。また、多くの貴重な友人たちとの出会いもありました。

3年遅れて大学に入学しましたが、その後の学問人生はとても順調でした。通常50歳代にならなければ医学部の教授には就けないと言われていたところを、30歳代で就任しました。医学部の教授を務めながら、北里柴三郎博士が初代理事長を務めた日本細菌学会で第53代理事長として細菌学発展のために過ごした日々。私の人生は博士なしでは語れないことに自分でも驚いています。これも、小学校から大学、大学院、そして、留学時代のそれぞれの時期に素晴らしい恩師に出会えたこと、また家族が全面的に私の夢実現を応援してくれたことなどが大きな力になっていると思います。

小学生のときのあの感動が、無意識であっても、私のその後の人生の選択に大きな影響を与えました。まさにあの夏の日がなかったら、現在の私はないと思っています。

今、私は、子どもたちに新しい世界に接してもらいたい、細菌学のみならず科学や医学に一層興味をもってもらいたいと願っています。そして、「自然界の不思議さ・魅力」さらには「他者との協調の重要性」にも気づいてほしいと願っています。



株式会社ナチュラルアート

代表取締役社長 鈴木 誠（すずき まこと）氏  
（青森市出身）



## ニッポンの農業を元気に！！

「日本の農業を元気にしたい」という思いから  
起業をしようと決めました。

私の実家は農家ではありませんが、りんご農園や稲作を営む親戚はけっこう  
いました。りんごの収穫時や稲刈りのときなどには、手伝いをしました。

この頃に手伝った作業自体には、つらかったとか楽しかったとかという、特  
別な印象は残っていません。ただ、手伝いに行ったときに、地べたに座って食  
べたおにぎりや、もぎたてのりんごがおいしかったということは強く印象に残  
っています。それが私にとっての農業の原体験になっているのかもしれませんが。

その頃は難しいことは何も考えられませんでした。こうして毎日農作業を  
して、おいしいお米やリンゴを作っても、それが、努力したほどは経済的  
に報われていないということは何となく感じられ、子ども心に矛盾を感じてい  
たことを覚えています。

私も、小学校くらいまでは多少まともだったと思いますが、中学、高校、大  
学と進むにつれて、いい加減になっていきました。将来の夢とか、誰かの役に  
立ちたいなどは、まったく考えていませんでした。ただ、好奇心だけはとて  
も旺盛おうせいでしたから、何にでも興味をもちました。野球もやりました。高校時  
代は映画に夢中になり、本気で映画監督になりたいと考えた時期もありました。  
でも、そんな夢も徐々に立ち消えていきました。

しかし、こんな私も、人生の節目では本気になる時期がありました。中学卒  
業後は、青森高校、慶應義塾大学と進学しましたが、いずれも受験勉強を始め  
る前までは合格ラインには程遠い成績でした。しかし、1年間必死で勉強する  
ことで、どちらも合格することができました。

大学では、生命保険業界のことを勉強する人気のゼミに入りました。特別深  
い意味はありませんでしたが、しいて理由を挙げるとすれば、担当教授が私の  
好きな坂本龍馬のファンとして有名な先生だったことです。この先生が、私の  
研究はおもしろいと言って、発表の機会を与えてくれたことがありました。

大学の卒業が迫ってきても、就職活動に熱が入りませんでした。本気でやり  
たいことが見つかっていなかったからです。そんな中でも、ありがたいことに  
東洋信託銀行（現・三菱UFJ信託銀行）に就職することができました。営業を  
5年間やりましたが、一生の仕事とは考えていませんでした。ただ、入社して  
数年で辞めてしまうことについては、「その仕事の本質を見極めた上で、辞め  
る決断をしたと言い切れるのか。」という疑問はもっていました。客観的に見

れば、それは「ただの根性なし」に過ぎず、我慢が足りなかったと見られるだけだろうと考え、“十年一区切り”のつもりで、十年は辞めないと決めたのです。

その後、本店へ異動になりました。このときから、ものの見方や考え方が少しずつ変わり始めました。本店では、ベンチャービジネスの勉強を始めたり、起業家といわれる経営者にも会いに行くようになりました。

この時お会いした経営者の多くはとても魅力的な方々でした。大手企業を飛び出して、夢に向かって努力しているような人がほとんどだったのです。そんな生き方に刺激を受け、大切なことを学ぶことができました。それは、計画書や決算書の内容よりも、そこにどんな人が集まり、どんな絆が結ばれているのかということ、“企業は人なり”ということなのです。そして、そのような人たちを見続けているうちに、彼らと私の人生のどちらが光り輝いているのかと考えるようになり、起業をしようと銀行を退職しました。32歳の時です。

起業をするに当たり、ビジネススクールに2年間入りました。この2年間の選択がよかったと思います。経営学等を学んだこともありますが、それ以上に大きかったのは、「物事を考えることの重要性」を学んだことと、そこで「出会った人たちとのつながり」です。後に、一緒に仕事をする人や助けてくれる人と出会うことができました。



この頃はベンチャーといえばIT産業という時代でした。ITビジネスグループ、バイオビジネスグループ等、様々な研究グループに参加しましたが、そういう中で、誰も目を向けなかった農業への興味を強くしていきました。

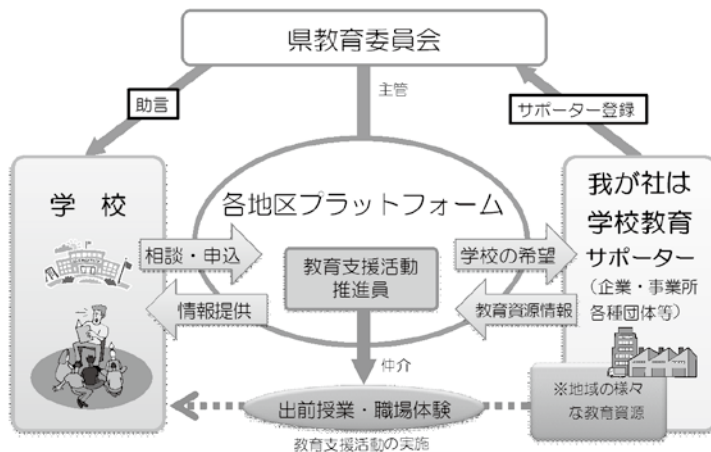
農業者の方と話をしたり、農作業を手伝う中で、農業の素晴らしさに感動しました。元気のない農業の分野を少しでも盛り上げていきたいと思うようになり、農業で起業しようと決めたのです。しかし、そういう話をすると変人扱いされ、「無理」「うまくいかない」という言葉ばかりが返ってきました。このことは、逆に言えば、農業で起業をしようと考える人が誰もいないということです。幼いころから農家の生活が豊かにならない矛盾を感じていましたし、青森県やその他の地方にも貢献できるという思いもありました。そして、「協力してほしい」と声をかけてくれる人が多くいたことも大きかったのです。自分の能力を売り込みに行くよりも、求めてくれる人の声に応じることが、はるかに嬉しいと思っています。

1つのことをやり遂げようとするとき、技術や計画が必要ですが、その前に絶対に必要なものは「どこまでもやりぬく情熱」です。どんな仕事にも困難はついて回ります。私も予想は外れますし、うまくいかないことが何度もありましたが、情熱をもってその壁を乗り越え続けているうちに、分かったことがあります。それは、困難と出遭った時、勇気をくれるものは、その仕事に対する志や理念だということです。ぜひ、志の高い挑戦を目指してほしいと思います。



## 青森県教育支援プラットフォームについて

教育支援プラットフォームは、学校・家庭・地域の「横の連携」によって、様々な学びの場や体験学習の充実を図るために、学校と地域の企業等を結ぶ仕組みです。このプラットフォームを活用することで、学校では、企業等が行う出前授業のプログラムや、職場体験等の受入れ先の紹介を希望に応じて受けすることができます。



(図) 仲介の流れ

### 1 「我が社は学校教育サポーター」の紹介

県教育委員会では、上記プラットフォームの趣旨に賛同し教育支援活動に協力してくださる企業・NPO等を「我が社は学校教育サポーター」として登録しています（平成26年1月現在837社）。

登録企業等の一覧はホームページで公開し、地域の企業・NPO等が可能な教育支援活動の内容を分かりやすく紹介しています。また、出前授業や職場体験活動の依頼方法や必要となる書類の様式についても掲載しています。 <http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/platform-list.html>

### 2 キャリア教育実践のための参考となる資料

#### (1) 『出前授業・職場体験ハンドブック』（平成25年3月発行）

出前授業や職場体験活動を進めるためのノウハウを紹介しています。

#### (2) 『教育支援活動メニュー集』（平成26年3月発行）

プラットフォームを活用した実践事例や「我が社は学校教育サポーター」登録企業等による提案プログラムを紹介しています。

※『キャリア教育の指針<総論編>及び<実践編>』と併せた活用をお薦めします。ハンドブックは県教育委員会ホームページからダウンロードできます。

<http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/platform-handbook.html>



### 3 実践例の紹介

本プラットフォームの仕組みを活用し、出前授業や職場体験活動等を行った学校の実践事例を県教育委員会ホームページで紹介しています。

<p>建築士による出前授業 (青森市立浦町中学校 職業講話)</p>	<p>クリーニング工場における職場体験 (青森市立東中学校)</p>	<p>美容師による仕事体験 (むつ市立第三田名部小学校「ユメココ教室」)</p>

※ <http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/platform-activities.html>

問合せ先

【県教育庁生涯学習課】 TEL : 017-734-9888 FAX : 017-734-8272

青森県教育委員会『キャリア教育の指針〈実践編〉』策定会議委員  
(平成25年度青森県キャリア教育推進連絡協議会委員)

所 属	職 名	氏 名
青森県小学校長会	青森市立後潟小学校校長	横内 清信
青森県中学校長会	青森市立油川中学校校長	辻 和文
青森県高等学校長協会	県立青森中央高等学校校長	雪田 一
公益社団法人青森青年会議所	理事長	高崎 俊明
青森県商工会連合会青年部連合会	会 長	東條 一彦
市町村教育委員会連絡協議会教育長会	青森市教育委員会教育長	月永 良彦
青森県PTA連合会	母親委員長	佐藤 江里子
県地域活力振興課	課 長	若木 憲悟
東青教育事務所	所 長	今村 俊明
県総合学校教育センター	副所長	福士 順一
県総合社会教育センター	副所長	長利 正彦

青森県教育委員会『キャリア教育の指針〈実践編〉』研究指定校作成委員（地区会議）

所 属	職 名	氏 名
県立青森工業高等学校	教 諭	藤田 宏
青森市立東中学校	教 諭	近藤 有子
青森市立原別小学校	教 諭	宮野 孝晶
青森市立野内小学校	教 諭	大野 亜由子
青森市立東陽小学校	教 諭	伊藤 忠之
県立板柳高等学校	教 諭	山本 淳二
板柳町立板柳中学校	教 諭	大場 靖之
板柳町立板柳中学校	教 諭	番場 亜由美
板柳町立板柳北小学校	教 諭	三浦 美穂子
板柳町立板柳南小学校	教 諭	寺山 佳乃
板柳町立小阿弥小学校	教 頭	山本 真規子
板柳町立板柳東小学校	教 諭	岩谷 博喜
県立弘前実業高等学校	教 諭	八島 功
平川市立碓ヶ関中学校	教 頭	嶋津 光則
平川市立碓ヶ関小学校	教 諭	内海 健
県立六ヶ所高等学校	教 諭	尾崎 恵子
六ヶ所村立千歳中学校	教 諭	大館 潤一
六ヶ所村立千歳平小学校	教 諭	濱田 由香子
県立大間高等学校	教 諭	中鉢 一美
大間町立大間中学校	教 諭	品田 道孝
大間町立大間小学校	教 諭	石橋 学
県立名久井農業高等学校	教 諭	小笠原 理高
南部町立名川中学校	教 諭	古里 直久
南部町立剣吉小学校	教 諭	小野 隆雄

青森県教育委員会『キャリア教育の指針〈実践編〉』作成委員（地区会議及び代表者会議）

所 属	職 名	氏 名
東青教育事務所	指導主事	澤田 裕一
西北教育事務所	指導主事	工藤 圭介
中南教育事務所	主任指導主事	松山 正男
上北教育事務所	指導主事	泉 毅知
下北教育事務所	指導主事	中村 邦夫
三八教育事務所	指導主事	川村 洋

[事務局]

なお、次の者が編集に当たりました。

所 属	職 名	氏 名
学校教育課	課長	成田 昌造
学校教育課	学校教育企画監	伊藤 直樹
学校教育課	課長代理	鈴木 学
学校教育課小中学校指導グループ	総括副参事	中谷 保美
学校教育課高等学校指導グループ	副参事	吉田 健
学校教育課高等学校指導グループ	主任指導主事	古川 浩樹
学校教育課小中学校指導グループ	主任指導主事	中村 隆人
学校教育課高等学校指導グループ	指導主事	清野 達雄
学校教育課小中学校指導グループ	指導主事	盛 秀一
学校教育課小中学校指導グループ	指導主事	長谷川 恵香子